

工数の多い「折り曲げ」工程の強化と ネットワーク化で生産性向上

NSDは7台のベンディングマシンが稼働し、薄い金属の板を複雑な形状に曲げ加工できる技術が強みだ。曲げ加工以外にも切断や溶接などの加工も行う。ものづくり補助金ではネットワーク機能を持つベンディングマシンを導入し、会社全体の生産性向上を目指した。若手社員が多く、今後も技術力を高めて成長を目指す。

会社概況

7台のベンディングマシンが稼働

2011年の会社設立当初から金属の薄板を切断や開孔、曲げ、溶接する薄板加工を手がける。本社工場が立地する岡山県勝央町や取引先、中小企業支援機関の手助けもあり、徐々に導入設備を拡充し、社員も増員していった。12人の社員は若手が多く、平均年齢はおおよそ30歳。2021年の春は初めての新卒社員も入社し、製造現場は活気にあふれている。

工場設備の特長は薄板を曲げるベンディングマシンの台数が多いことだ。レーザー加工機が1台、タレットパンチプレス機2台に対してベンディングマシンは7台が稼働する。永田賢一社長は「特殊な曲げ加工を手がけているため」とベンディングマシンの台数が多い理由を説明する。



勝央町や取引先の支援で事業基盤構築

事業内容

生産現場をネットワーク化

加工する薄板はデスクサイドワゴンやスチールラックなど事務機器向けが大半を占め、一部医療関連からも受注している。加工可能な薄板のサイズは最大3メートル。大きなものから小さなものまで1日約200点の部品を加工する。1点あたりの生産数が多いもので1000個と「プレス加工に近い」（永田社長）という。

ものづくり補助金で2018年に導入したのは高精度なベンディングマシン。この設備を導入した最大の目的は生産現場のネットワーク化だ。ベンディングマシンはネットワーク機能を有しており、社内の生産管理システムや3次元CAD、加工データとつながることができる。さらにR形状などの難しい曲げ加工にも対応する。



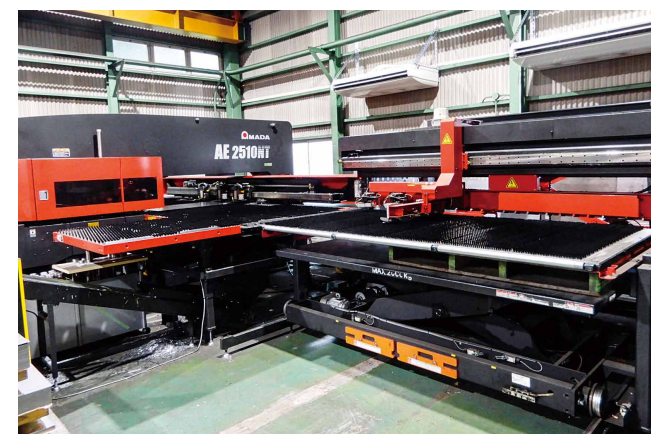
高精度なベンディングマシンを導入

事業成果

会社全体の生産性向上

NSDには1日100点程度の仕事依頼が入ってくる。生産管理システムで、いつまでに、どの加工を、何点加工するかを入力。そのデータがベンディングマシンにも送られ、指示通りに加工していく。さらにどの金型を使って、どのような曲げ加工したかなどを記録し、生産管理システムで状況を把握する。永田社長は「会社全体の生産性を向上できた」と強調する。

設備導入後も仕事量は順調に増えているという。そこで2019年以降も同じタイプのベンディングマシンやテーブルスポット溶接機など最新の装置を導入し対応した。2021年には工場に空調設備を導入するなど社員が働きやすい製造現場の環境づくりにも努めている。



タレットパンチプレスで切断や開孔する

会社概要

設立 2011年
資本金 1000万円
従業員数 12人
売上高 非公表

所在地 岡山県勝田郡勝央町岡1027-2
TEL 0868-38-7791
FAX 0868-38-2308
URL <http://www.nsd-d.co.jp/>



ワンポイント

最小限の人員で運営

中小の製造業で工場内の装置や設備をネットワークでつなぐ動きが広がってきた。要因の一つはNSDの様にネットワーク機能を持つ装置を導入しやすくなった点。もう1点は労働人口の減少により、新たな人材の採用が難しくなり、管理部門などを最小限の人員で運営したいという経営者が増えたことだ。岡山県の有効求人倍率は新型コロナウイルス感染拡大前は2倍を超え、製造業に限らず非製造業でも採用が難しい状況が続いていた。



代表取締役
ながた けんいち
永田 賢一さん